

近代美術館の名品

当館の所蔵品から名品を選びすぎて紹介します。

作家名	作品名	制作年	技法、素材	備考
高村 真夫	春日野	1911年	油彩、キャンヴァス	前期
宮芳平	ドント・オープン	大正中期	紙本彩色	後期
良寛	なすずけ	1800年代前半 (文化・文政期)	墨、紙	前期
	白雲抱幽石	制作年不明	墨、紙	前期
	寒山詩「人間寒山道」	1790年代後期～ 1800年代	墨、紙	前期
	寒山拾得画讃	1812年	墨、紙	前期
	和歌一首	制作年不明	墨、紙	前期
	和歌一首	1821年頃	墨、紙	前期
	阿部定珍宛書簡	1800年代中頃	墨、紙	後期
	貼り交ぜ	1800年代中頃	墨、紙	後期
	修身	1817～1825年	墨、紙	後期/寄託
	南無天満大自在天神	1817～1825年	墨、紙	後期/寄託
	題蛾眉山下橋杭	1827年頃	墨、紙	後期/寄託
冬夜長	1830年	墨、紙	後期/寄託	
中村 不折・下村 為山	卓峰送別図	1890年頃	紙本彩色	前期・後期 寄託
小山 正太郎	障子貼り図	1908年	絹本彩色	前期
	一樹下十字詩図	1908年	絹本彩色	前期
	牧童図	制作年不明	紙本彩色	後期
	牧童図	1912年	紙本彩色	後期
	仙台の桜	1881年	油彩、キャンヴァス	
	婦人	1891年頃	油彩、キャンヴァス	
	男の肖像	制作年不明	油彩、キャンヴァス	
アントニオ・フォンタネージ	ブジェイ高原	1858～60年頃	油彩、キャンヴァス	
小泉 成一	小春ノ日和	1889年	油彩、キャンヴァス	
田中(脇屋) 本吉	仙台の桜模写	1894年	油彩、キャンヴァス	寄託
	題不詳	1888年	水彩、紙	前期
	伊豆修善寺	制作年不明	水彩、紙	後期/寄託
	飛騨国中山七里ノ中	制作年不明	水彩、紙	前期/寄託

三輪大次郎	睡蓮の沼	制作年不明	油彩、キャンヴァス	後期
田中 本吉	風景(七ツ釜)	1932年	油彩、キャンヴァス	
	風景	制作年不明	油彩、キャンヴァス	
高村 真夫	女	1920年代前半	油彩、キャンヴァス	
	怠惰	1921年	油彩、キャンヴァス	
	裸婦	1921年	油彩、キャンヴァス	
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919年	油彩、キャンヴァス	
	小鳥の復活	1917年	ペン、葉書	寄託
	書簡(部分)T5.3.9	1916年	墨、紙	前期
	書簡(部分)T7.3.11	1917年	墨、紙	後期
	書簡(部分)T5.4.28	1916年	墨、紙	前期
	書簡(部分)T8.7.31	1919年	インク、紙	前期
	書簡(部分)T9.9.20	1920年	インク、紙	後期
	書簡(部分)T9.10.28	1920年	インク、紙	後期
	書簡(部分)T9.11.11	1920年	インク、紙	後期
	牧野 廣圓(廣吉)	洲崎義郎胸像	1991年	木彫
宮 芳平	カーテンに	1914年	油彩、キャンヴァス	
	自画像	1919年	コンテ、紙	寄託
	風景その19	1950年 (1963年加筆)	油彩、キャンヴァス	
	睡蓮その1	1958年	油彩、キャンヴァス	
国領 経郎	女医さん	1947年	油彩、キャンヴァス	
	千原氏像	1948年	油彩、キャンヴァス	

立体・彫刻の楽しみ

見る位置や角度によってその表情が変わることが、立体・彫刻作品の大きな魅力の一つです。また、使われている素材によっても表情が大きく異なります。さまざまな形、材質の作品が並ぶ展示室で、平面作品とは異なる「見る楽しみ」を味わってみましょう。

作家名	作品名	制作年	技法、素材	備考
藪内 佐斗司	走る童子	1996年	ブロンズ	
オーギュスト・ロダン	考える人	1880年	ブロンズ	
マリノ・マリーニ	騎手のための構想・習作	1955年	ブロンズ	
八木 一夫	環境の表裏	1967年	黒陶	
宮崎 進	ナナエツの少女	1996年	石膏、油絵具	
マイケル・サンドル	すずめ蛾	1967年	彩色した繊維ガラス、真鍮	寄託
チャールズ・ヒンマン	Yellow Hook	制作年不明	油彩、キャンバス	
	休憩	1965年	油彩、キャンバス	
	ナンバー・エイト	1965年	油彩、キャンバス	
	ナンバー・ナイン	1965年	油彩、キャンバス	

斎藤 義重	“反対称”正八面体プラトンの多面体	1978年	合板
	“反対称”対角線	1977年	水彩、紙
	“反対称”三角形No.1	1976年	木、プラスチック
	“反対称”三角形No.2	1976年	木、プラスチック
宮田 宏平(三代藍堂)	布留の佛たち	1966年	鋳金、アルミニウム
	伝承	1968年	鋳金、アルミニウム
細野 實	雲の標	2002年	木彫
渡邊 利暲	門	1965年	ブロンズ
	陽	1968年	ブロンズ
	鏡の前で毛繕いする猫	1985年	アルミ、ラッカー塗装
熊井 恭子	DRAPE・G	1989年	ステンレス・スチール
	DRAPE・S	1989年	ステンレス・スチール
原 正樹	曲面の斜角柱	1970年	鋳金、真鍮
磯辺 行久	WORK '63-87	1964年	大理石粉、油絵具、木、他
久野 真	鋼鉄による作品	1963年	鉄板

没後10年 久保田成子

新潟市出身の美術家・久保田成子(くぼたしげこ 1937～2015)は1964年に渡米し、前衛芸術運動フルクサスに参加。その後はビデオという当時の最新メディアで国際的に活躍しました。新収蔵された資料類を中心に、再評価の高まりをみせる久保田の活動を振り返ります。

作家名	作品名	制作年	技法、素材	備考
	渡米前の久保田成子	1964年頃	写真	
	《死石5》(第25回新制作展出品作品)ポストカード	1961年	印刷物	
	屋外での制作風景	1963年	写真	
	作品(タイトル不詳)	1963年頃	写真	
	《Suddenly》展示風景(「第15回日本アンデパンダン展(読売アンデパンダン展)」)	1963年	写真	
	《We can make it》展示風景(「第15回日本アンデパンダン展(読売アンデパンダン展)」)	1963年	写真	
	「第15回日本アンデパンダン展(読売アンデパンダン展)」展示風景	1963年	写真	
	久保田の叔母、邦千谷(邦千谷舞踊研究所)	1963年	写真	
	「1st. LOVE, 2nd. LOVE…久保田成子彫刻個展」会場風景	1963年	写真	
	「1st. LOVE, 2nd. LOVE…久保田成子彫刻個展」会場風景	1963年	写真	
久保田 成子	グッゲンハイム美術館のベン・ヴォーティエ展オープニングにて(1972年) 撮影:久保田成子	1995年	パステル、水彩、鉛筆、紙/フот リソグラフ	
フルクサス(編集:久保田成子、デザイン:ジョージ・マチューナス)	『ハイレッド・センター』	1965年	印刷物	
塩見 允枝子	『スペシャル・ポエム』	1976年	冊子	
	ジョージ・マチューナス、フランチェスコ・コンツと久保田成子 撮影:ベアテ・ニツチュ	1974年	写真	

	ジョージ・マチューナスとフランチェスコ・コンツ 撮影:ベアテ・ニッチュ	1974年	写真	
	ナムジュン・パイクとフランチェスコ・コンツ 撮影:ベアテ・ニッチュ	1974年	写真	
	ナムジュン・パイクとヘルマン・ニッチュ 撮影:ベアテ・ニッチュ	1974年	写真	
	久保田成子とギュンター・ブルース 撮影:ベアテ・ニッチュ	1974年	写真	
	ナムジュン・パイクとギュンター・ブルース 撮影:ベアテ・ニッチュ	1974年	写真	
	「久保田成子:ライブとビデオテープによるコンサート」での久保田とパイク 撮影:ピーター・ムーア	1972年	写真	
	キャロリー・シュニーマンから久保田成子への書簡	2006年	インク、印刷物	
	キャロリー・シュニーマン《スノーズ》より 撮影:バジジャーニ、ハーバート・ミグドル、シャーロット・ヴィクトリア、アレック・ソボルスキー	1967年	写真/インクジェット・プリント	
	「エクスペリメンタル・テレビジョン・センター・ビンガムトン」(エヴァーソン美術館)ポスター	1972年	印刷物	
	「久保田成子 ヴィデオ・テープ」(エヴァーソン美術館)ポスター	1972年	印刷物	
	ポータパックを持つ久保田成子 撮影:トム・ハール	1972年	写真	
	ヴェネツィアでの久保田成子	1972年頃	写真	
	『Bulletin for Film and Video Information』(Vol.1, No.3, 1974年6月)	1974年	印刷物	
	『Arts Magazine』(1974年12月)	1974年	冊子	
	アンソロジー・フィルム・アーカイヴズでの久保田成子 撮影:ホルス・メルトン	1974年	写真	
	バーバラ・バックナーと久保田成子 撮影:安齊重男	1978年頃	写真	
	久保田成子と女性アーティストたち 撮影:安齊重男	1978年頃	写真	
	「久保田成子によるジョン・ケージの(60歳の)ビデオ・パースデー・パーティー」(ザ・キッチン)ポスター	1972年	印刷物	
	「ビデオテープ」(サンタ・モニカ大学ド・セセット・アート・ギャラリー)ポスター	1972年	印刷物	
久保田 成子	ブローケン・ダイアリー:私のお父さん	1973-75年	シングルチャンネル・ビデオ	
久保田 成子	ブローケン・ダイアリー:ソーホー・ソープ/雨の被害	1985年	シングルチャンネル・ビデオ	
久保田 成子	《ナイアガラ》スチール写真	1992年	インクジェット・プリント	寄託
	《ビデオ・ポエム》と久保田成子 撮影:メアリー・ルシエ	1975年	写真	
	母宛書簡(1976年1月の個展について)	1976年	写真、スライド、布テープ、インク、紙	
	《河》展示風景	1983年	写真	
	『Art in America』(1984年2月号)	1984年	冊子	
	《3つの山》展示風景	1979年	写真	
	「Kubota Shigeko Video-Sculptures」(Kunsthau Zürich)個展案内状	1982年	印刷物	

	《アダムとイヴ》展示風景 撮影:ピーター・ムーア	1991年	写真
	「Kubota Shigeko Video Sculpture」 (Mudima) 個展案内状	1994年	印刷物
久保田 成子	[鉄の木 ソウルのプーサンの広場のために]	1994年	色鉛筆、紙
久保田 成子	[Videoは時間のARTである]	1995年	水彩、鉛筆、紙
	『マルセル・デュシャンとジョン・ケージ』	1970年	インク、紙、ソノシート
	『美術手帖』(1968年3月号)	1968年	冊子
	[複製写真] マルセル・デュシャンによるサイ ンのある『美術手帖』(1968年3月号) 撮影:ピーター・ムーア	1991年頃	インクジェット・プリント
	《デュシャンピアナ:階段を降りる裸体》と久 保田成子 撮影:エリック・クロール	1976年	写真
	「久保田成子」(鎌倉画廊) 個展案内状	1998年	印刷物
	《マルセル・デュシャンの墓》と久保田成子 撮影:メアリー・ルシエ	1975年	写真
	《デュシャンピアナ:ビデオ・チェス》と久保 田成子 撮影:ピーター・ムーア	1976年	写真
	《デュシャンピアナ:ビデオ・チェス》(部分) 展示風景 撮影:トム・ハール	1976年	写真
	《メタ・マルセル:窓》展示風景 撮影:ピーター・ムーア	1976年	写真
	「Shigeko Kubota: 3 Video Installations. Duchampiana」(Rene Block Gallery) 個展案 内状	1976年	印刷物
	「Shigeko Kubota 4 Video Sculptures: Duchampiana」(Japan House Gallery) 個展 案内状	1978年	印刷物
	《デュシャンピアナ:自転車の車輪》(部分) 展示風景 撮影:ピーター・ムーア	1983年	写真
萩原 朔美	記録映像(久保田成子とナムジュン・パイクの アトリエにて)	1973年	ビデオ・テープ
	「エレクトロニック/アート III」展での久保田 成子とナムジュン・パイク 撮影:トム・ハール	1971年	写真
	ロフトの久保田成子とナムジュン・パイク 撮 影:トム・ハール	1974年	写真
	ロフトの久保田成子とナムジュン・パイク 撮 影:トム・ハール	1974年	写真
	マーサー・ストリートのアトリエにて 撮影:安齊重男	1978年	写真
	久保田成子とナムジュン・パイク(デュッセル ドルフにて)	1983年	写真
	久保田成子とナムジュン・パイク	1980年代	写真
	ロフトの機材の前のナムジュン・パイクと久保 田成子(ニューヨークにて) 撮影:ローランド	1986年	写真
	久保田成子とナムジュン・パイク(第45回ヴェ ネツィア・ビエンナーレにて) 撮影:ローマン・メンシング	1993年	写真
	ナムジュン・パイクの吊るされたマスク(第45 回ヴェネツィア・ビエンナーレにて) 撮影:ローマン・メンシング	1993年	写真
	「Shigeko Kubota Sexual Healing」(Lance Fung Gallery) 個展案内状	2000年	印刷物

	「Shigeko Kubota My Life with Nam June」 (Maya Stendhal Gallery) 個展案内状	2007年	印刷物	
ナムジュン・パイク	パイクから成子への手紙	2001年	印刷(複製) / インク、クレヨン、紙	寄託
	久保田成子関連書(14冊)	1979-2021年	印刷物	
吉原 悠博	River:ある前衛芸術家の形見	2021年	シングルチャンネル・ビデオ	作家蔵
瀧健太郎(監督) ビデオアートセンター東京 (企画・制作)	「久保田成子インタビュー」『キカイデミルコト:日本のビデオアートの先駆者たち』より	2013年	ブルーレイディスク	

その他の館内展示作品

作家名	作品名	制作年	技法、素材	備考
■エントランス				
竹田康宏	Under the leaves 98 AU "Let's stay right here"	1998年	FRP、ウレタン塗装	
■コレクション展回廊				
竹田康宏	Under the leaves	1994年	FRP、ウレタン塗装	
■コレクション展示室中庭				
佐藤忠良	若い女	1971年	ブロンズ	

「親子ふれあいデー」のご案内

実施日：3月14日（土）

- ・中学生以下の子を同伴する保護者のコレクション展観覧料が無料になります（子ども1人につき保護者2人まで）。
- ・展示室内で声の大きさを気にせず鑑賞をお楽しみいただける「おしゃべりタイム」（各日9:00～17:00）を実施します。

次回企画展のご案内

「描く人、安彦良和」展

会期：3月7日（土）～5月24日（日）

休館日：毎週月曜日（5/4^㊿は開館し、5/7^㊿休館）

観覧料：当日券 一般 1,700円（1,500円）、大学・高校生 1,000円（800円）

※中学生以下無料

※大学・高校生は受付で学生証をご提示ください。

※（ ）内は有料20名以上の団体料金です。

※障害者手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。

手帳を受付でご提示ください。

コレクション展アンケートにご協力ください。



ウェブ上で簡単に回答していただけます。

お持ちのスマートフォン等で、右のQRコードを読み取ってご回答ください。

